

# 非核の政府を求める会ニュース

## 福島第一原発の事故について

核・エネルギー問題情報センター

理事 児玉一八

この文章を書いている三月一六日現在、福

島第一原発の状況は以下のようになっています。

【一号機】冷却機能喪失、炉心溶融。

一二日に水素爆発がおこり、原子炉建屋上部が吹き飛んだ。

【二号機】冷却機能喪失、炉

心溶融。一五日に圧力抑制室付近で爆発音が

あり、原子炉格納容器が損傷の恐れ。

【三号機】冷却機能喪失、炉心溶融。一四日に水素

爆発がおこり、原子炉建屋上部が吹き飛んだ。

【四号機】定期検査で停止中。一五日に使用

済み核燃料ブール付近で爆発音がして、原子炉建屋が損傷し、火災も発生。一六日にも火災。

日本の原発史上最悪の事故であり、旧ソ

連・チエルノブイリ原発事故（八六年）や米・

スリーマイル島原発事故（七九年）に匹敵す

るとの指摘もあります。

福島第一原発は東北太平洋沖地震が発生した時、一～三号機が運転中でした。地震の強い揺れによつて、制御棒が炉心に挿入され原子炉は緊急停止しました。しかし、炉心には大量の核分裂生成物があり、原子炉を停止した後も大量の崩壊熱を出すため、炉心を冷やし続けなければなりません。原発が停止したので、冷やすための電力は、外部電源か

非常用ディーゼル発電機に頼る必要があります。しかし、外部電源も地震で失われました。非常用ディーゼル発電機は作動しましたが、大津波の襲来で動かなくなり、電源はすべて失われてしまいました。万が一の際に炉心を冷やすECCS（緊急炉心冷却装置）も動かなくなり、ついに炉心が露出してしまいました。

炉心の核燃料が露出して空焚き状態にな

ると、崩壊熱のために燃料被覆管の温度は毎秒五～一〇℃の割合で上昇します。被覆管のジルカロイの温度が一千℃近くになると、ジルカロイ・水反応により被覆管の表面が酸化物でおおわれ、同時に水素ガスが発生しま

す。空気中の水素濃度が四%を超えると、ちよつとした火花などでも引火して水素爆発をおこします。さらに、被覆管がジルカロイ水反応で脆くなつたところで、冷却水が注入されると、熱衝撃によつて破断する可能性もあります。破断した被覆管はバラバラになり、ちようど落ち葉が溝に詰まるように燃料棒の間に詰まつてしまい、冷却はできなくなります。

スリーマイル島原発事故では、ECCSなしの冷却材喪失事故により炉心が露出したままとなりました。事故発生から約三時間半後、ECCSを再起動して炉心は再冠水しましたが、すぐでに炉心は重大な損傷を受けており、炉心を構成する物質の約四五%（六一七）が溶融し、二〇が原子炉容器底部に落下したとされます。

地震発生時に運転中だった一～三号機すべてで、冷却材喪失から炉心溶融にいたる大事故が発生しました。一、三号機では水素爆発もおこり、原子炉建屋の上部が吹き飛びました。

二号機では、格納容器の下部にある圧力制

〒920・0848金沢市京町二八の八  
石川民医連労働組合氣付  
076・251・0014  
郵便振替〇〇七六〇・一五六八九

①全人類共通の緊急課題として核戦争防止、核兵器廃絶の実現を求める②国是とされる非核三原則を厳守する③日本の核戦場化へのすべての措置を阻止する④国家補償による被爆者援護法を制定する⑤原水爆禁止世界大会のこれまでの合意にもとづいて国際連帯を強化する。

項目五 核 非

御室というドーナツ状のプールで、爆発が起つたとみられます。格納容器の損傷は、放射性物質を閉じ込める機能が失われていることを意味します。原発やその周辺で大量の放射線が検出されていますが、二号機の圧力抑制室の損傷によると思われます。

定期検査中の四号機では、格納容器の外にある使用済み核燃料プールで、冷却装置の故障などで温度が上がり、爆発炎上事故が起こっています。使用済み核燃料には大量の核分裂生成物が含まれ、きわめて強い放射能をおびています。これが周辺に飛び散ったことでも、大量の放射線が検出された原因になっています。

原発事故で放射性物質の放出を防ぐために、「止める」「冷やす」「閉じ込める」の三つが重要ですが、今回の事故で「冷やす」「閉じ込める」は完全に失敗してしまったのです。

福島第一原発から放射性物質が外部に漏れだしたことにより、政府は100km圏内に避難を指示したのに加え、100~300km圏の住民に屋内避難を求めました。これまで政府や石川県などは、原発事故が起つても10km圏外に影響は及ばないと言ってきました。

放射線障害には、確定的障害（被曝線量がある限界線量「しきい値」を超えると誰にでも傷害が起こり、限界線量以下では障害が起こらない）。被曝線量が大きくなるにつれて症状が重くなる。皮膚の赤斑、脱毛などの早期

障害と発がんを除く晚発障害が含まれる）と確率的影響（限界線量が存在しないと考えられ、どんなに低い被曝線量であってもそれなりの確率で起こる障害。被曝線量が大きくなるにつれて、障害の発生する確率が上がる。発がんと遺伝的影響が含まれる）の二種類があります。テレビなどは、福島第一原発から放出された放射能で大きな健康被害はないように報じていますが、確率的影響を無視した議論であり、不正確です。

事故や放射能汚染の情報発信が遅く、小出しになつていて、被災地の方々や多くの国民が不安をいだいています。状況を迅速に、しかも、国民が理解できるように説明する」ことが急務です。

「平和で安全な世界」を実現するための「枠組み」をつくるよう呼びかけた最終文書を採択した。核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)の呼びかけにより、同会議終了後の最初の土曜日、六月五日に行われたのが Nuclear Abolition Day（核兵器廃絶記念デー世界同時アクション）である。同日世界各地で各国政府に向けて核兵器廃絶交渉に向けた具体的なアクションを起こすよう様々な要請行動、アピールが行われた。

核戦争を防止する石川医師の会（以下、石川反核医師の会）では総会を開いた五月三十日、会場傍の近江町市場前で核兵器禁止条約の制定を求める“白衣の街頭キャンペーン”を行つた。同日記念事業として開いた“NPT再検討会議の参加報告会”と“被爆証言を聴く会”には多数の市民参加があり盛会となつた。また六月五日には核保有国（アメリカ、ロシア、イギリス、フランス、中国）の首脳あてに核廃絶に向けた具体的なロードマップの作成を求める要請書等を送付し、マスコミ各社にもアピールした。

今年の六月五日は日曜日。石川医師の会では一年前から“六・五 Nuclear Abolition Day”を総会開催日に設定し、総会記念事業を練つてきた。今年は、？核兵器廃絶条約の制定を求める「白衣の街頭キャンペー？」、岩佐幹三日本被団協事務局次長の「被爆証言を聴く会」長編アニメ「はだしのゲン」上映

会を計画している。

石川医師の会では小・中学生から被爆の実相を伝える」とが大事と、漫画「はだしのゲン」(全十巻)を県内の小中学校図書館に寄贈する計画を立てており、六月五日を募金活動のスタート集会に位置づけている。非核の政府を求める石川の会はじめ県内の反核・平和団体や二〇一〇年NPT再検討会議・ニューヨーク行動参加者、マスコミ各社等に呼びかけて“六・五 Nuclear Abolition Day”を広く市民にアピールしていただきたい。

(報告 神田順一)

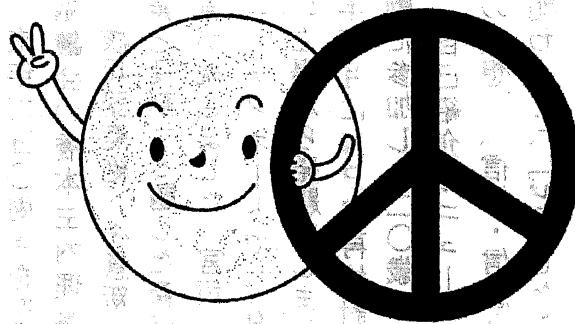


矢萩新一(日本聖公会金沢聖ヨハネ教会牧師、石川県宗教者平和協議会事務局、小立野・犀川ロード九条の会事務局)

宗教者平和運動交流集会(シンポジウム)に参加して

去る二月二八日、「被災五七年三・一ビキニデー久保山愛吉墓前祭」に先立ち、日本宗教者平和協議会の主催で、「宗教者平和運動交流集会=シンポジウム『若い宗教者大いに語る』」が開催されました。

私もその発題者の一人として呼ばれ、八時頃の「しらさぎ」に乗り込み金沢を出発しました。すると、人身事故があり武生駅で電車が一時間半ほどストップし、一四時からの集会に間に合わない…、参加を断念せざるを得ないかと心配しましたが、何とか一四時半過ぎに会場の「かんぽの宿・焼津」に到着することができ、すでに発題者の自己紹介が進行している中へと滑り込めました。



以下、集会の概要と私の発言をまとめさせていただきます。

来年で五〇周年を迎える日本宗教者平和協議会の橋本左内理事長の挨拶に始まり、「核兵器廃絶へ決意新たに、新しい署名の意義と役割」と題した森修覚事務局長の基調報告が続きました。宮司の奥田靖二副理事長のコードィネーターで六名の宗教者がそれぞれ

の立場から発題をしました。この六名は、昨年五月にNPT再検討会議ニューヨーク行動に参加した「一〇歳／四二歳のメンバー」で、「自己紹介とニユーヨーク行動に参加しての感想」、「信仰・信念と核兵器廃絶の運動に關わって」、「どうしたら核兵器の廃絶が実現できるか」という三つのテーマに沿って発言がありました。各発言の骨子は以下の通りです。

「宗教者としてのお勤めと平和運動は車の両輪。檀家の方々や地域の人々に報告会を開き、継続した対話が大切」荒川徹真さん（真宗大谷派僧侶・東京）、「宗教を超えてそれが平和、核廃絶というテーマに向かって歩むことが大切。平和運動は幼いうちからの体験が大切」河崎俊宏さん（日蓮宗僧侶・石川／輪島）、「ニューヨークでの宗教者や人々との交流は貴重な経験だった。こうしたことを持ち強く積み重ねることが核兵器廃絶を可能にしていく」小西晴香さん（キリスト者・北海道／札幌）、「自分自身が戦争を体験して

いないからこそ、次の世代に語り継ぐことが使命。貞子と千羽鶴の紙芝居を継続」佐治麻紀さん（日蓮宗僧侶・静岡／伊豆市）、「若い世代に関心を持つてもらえるように取り組み、平和への思いを広げていきたい。宗教者のみなさんに出会えて嬉しい」新屋朝貴さん（東洋大学学生・千葉／松戸市）。

矢萩の発言を以下に記します。

#### ◎ 信仰・信念と核廃絶運動に関わって

教会の中では、政教分離という考え方、政治的なことを教会の中に持ち込むべからずと

いう雰囲気が根強くあります。学生運動の時代には、平和運動を一生懸命頑張つたけれども、何も変わらなかつたというあきらめに近い感情が少なからずあるよう思います。そんな中で、信仰の深いところで、平和の課題を捉えていく、信仰的なこと、政治的なことと線引きをしてしまうのではなく、命を大切にするという宗教の根本的な課題であることを改めて思われます。最近の若い世代は政治や社会問題に関心が薄いといわれる中、諸先輩方の熱い思いや行動力を目の当たりにして、自分たちがしっかりと引き継いで考

は初代教会からの伝統として受け継いでいるはずです。教会の中だけの祈り、交わりであるなら、それは意味がなく、広い視野を持って祈り、人に仕える心を持つことが教会の使命だと思います。自分の魂が癒されることと同じように、多くの人の魂が癒され、平和を実現していくことがキリスト教だと確信しています。

#### ◎ どうしたら核兵器の廃絶が実現できるか

ひとりひとりが核の抑止力ではなく、信仰の良心という抑止力を持つこと、武力ではなく解決していかないことを学び、安心してイヤだという声を上げられる環境を整えていくことが大切で、私たちはその責任があると思う。私たちが説得力を持つて核廃絶、平和を訴えて行くには、日常のお勤めや生活を整えて行くことと、ひとりひとりの心に届くメッセージをいかに発信していくかが問われてもいると思います。マザーテレサは人間の無関心が最大の罪だと言わされました。人間はできれば面倒なことを避けて通りたい生き物です。でも、それだけでは充実しない人生を送れないということも知っています。一つでも多くの無関心を無くしていく、信仰という抑止力を武器に、命を大切にしようと叫ぶ仲間を増やしていくことが今の自分の課題だと考えています。以上。

このシンポジウムでは最後に、被災五七年

三・一ビキニデー宗教者平和運動交流集会の名前で『核兵器全面禁止』の決意新たに』というアピールを探査し、散会となりました。せつかく焼津までいきながら、ビキニデーの諸行事に参加できることが心残りでした。が、皆様へのご挨拶もそこそこに帰路についた次第でした。



ので八〇kmで安全に走ることを確認し合う。やすらぎホーム関係者の見送りを受け、身が引き締まる思いで出発しました。

途中小休憩をしながら一一時四〇分私たちの救援品を待つ人たちに迎えられ、新潟市の「穂波の里」に到着。老人介護施設は臨時の荷捌所のようでした。

被災地の施設がすぐに必要とする品を積み替え、三台のワゴン車が山形へ向けて出発。私たち四名も手を振つて見送ると、大切な救援品の手渡しが出来たことで気持ちが軽くなりました。

チョコとお茶を一服ご馳走になり一二時三〇分帰路に着く。途中SAで昼食をし、雨の中一七時無事やすらぎホームに帰りました。

○金沢を出発の際「第一陣が運んだお水で湯を沸かし入所者さんの体を洗つてあげて大変喜んでもらえた」と現地からのお礼の電話があつたことを聞き、市販のペットボトル水は飲料や炊飯だけでなく多用途があることを教えられる。

一七日の第一陣に次ぐ、第二陣の救援品輸送でした。南健康友の会ボランティア・グループの先輩から声をかけられ、この大惨事に役立つことなら、と手をあげました。

二〇日午前七時、二台のワゴン車はスプリングが重く沈みこむほどの救援品を満載、運転者四名は荷が重いことと貴重な救援品な

消防車や救援品を運ぶ輸送車を数多く見ましたが、某メーカー系のタンクローリー車が十数台並んでSAに駐車していたのが心強く印象に残った。

○命をつなぐリレーは全国の高齢者福祉施設でつくる「二一世紀・老人福祉の向上をめざす施設連絡会（京都市）」が大阪から各地の加盟施設を経由して被災地へ救援品を一刻も早く運ぶリレーのこと。私たちが運んだ品は新潟から山形に集結、必要とするものを各被災施設に運ぶリレーです。

○善意の救援が一日も早く終わり、被災された方が安心して日常生活に戻られることを念じながら帰りましたら、原発事故避難民が新たな問題として浮上してきました。

（報告者 川本浩平）

## 東日本大震災

### 救援品輸送に参加しました

### 命をつなぐリレー



**【連載】対談——狂氣の時代——**

再びそれを繰り返さないために

開催 金沢市黒田町

れどろぎやらりい柳心庵にて

二〇一〇年六月七日

出席者 莹 昭三・城北病院名誉院長、

反核医師・医学者のつどい代表世話人

一塚 保・れどろぎやらりい柳心庵

代表

司会 永山孝一・金沢建築とまちづくり研究所

会長

永山 莹先生はいしかわ自治研のニュース

を毎号熟読してくださっているとの  
ことです。そのなかで一塚さんが書  
かれた第二次大戦時のドイツについ  
ての話に特に興味をひかれ、是非とも  
お話を聞いてみたいとのことで、今日の  
対談が実現しました。

記事を読んだとき、二〇世紀の日本と  
ドイツのファシズムの起ころ方につ  
いての考え方、加藤周一の発想とそ  
つくりだと思いました。石川県にもこ  
うした考え方をされる方がいるのだ  
と感心しました。

一塚 第一次と二次大戦前後のドイツ現代  
史、特にナチスドイツの戦争犯罪に関

莹

日本医学会の第二八回総会が明年四

月にあつて、其のときに問題を提起し

よう

と

今

準備

を

して

いる

の

で

は

な

に

よ

う

と

思

う

る

説得力があります。

心を持つようになったのは、学生時代  
に著名な心理学者フランクル博士の  
「夜と霧」を読んでからです。自らナ  
チスの迫害を受け、絶滅収容所でから  
うじて生きのびた人ですから。彼の心  
理分析には体験者ならではの鬼気迫  
る説得力があります。

日本も同様、今でこそ「軟弱」な国で  
すが、明治以降の断続的に続いた日本

のすさまじい対外軍事膨張が周辺諸

国にとつてはいまだにトラウマにな  
つて

ているよう

です。

日本も同様、今でこそ「軟弱」な国で  
すが、明治以降の断続的に続いた日本

のすさまじい対外軍事膨張が周辺諸

国にとつてはいまだにトラウマにな  
つて

いるよう

です。

日本も同様、今でこそ「軟弱」な国で  
すが、明治以降の断続的に続いた日本

のすさまじい対外軍事膨張が周辺諸

国にとつてはいまだにトラウマにな  
つて

いるよう

です。

日本も同様、今でこそ「軟弱」な国で  
すが、明治以降の断続的に続いた日本

のすさまじい対外軍事膨張が周辺諸

国にとつてはいまだにトラウマにな  
つて

いるよう

です。

「加害者」の日独両国民自身はそういう歴史認識は希薄になりますが、「被害者」の周辺諸国には今なお潜在的

に

いるようです。たとえば、ポーランドは独ソ両国の侵略・分割、カチンの森の虐殺やアウシュビツツなど多くの血なまぐさい歴史の舞台となり、大国の非情さ、酷薄さ、裏切りをいやとうほど味わってきました。

ところ

で、アウシュビツツ収容所といえば、ヨゼフ・メンゲレというナチス親衛隊将校でアウシュビツツの主任医官がユダヤ人をモルモットのように扱い、残虐でちやくちやな人体実験を繰り返したことでも知られています。絶滅収容所の親衛隊医官というの

は

病気を診るというよりも、到着したユダヤ人の中からガス室送りにする者たちの選抜、またそれらガス殺したユダヤ人の死体を焼く作業人員の選

択

は

ある

です。

「加害者」の日独両国民自身はそういう歴史認識は希薄になりますが、「被害者」の周辺諸国には今なお潜在的

に

いるようです。たとえば、ポーランドは独ソ両国の侵略・分割、カチンの森の虐殺やアウシュビツツなど多くの血なまぐさい歴史の舞台となり、大国の非情さ、酷薄さ、裏切りをいやとうほど味わってきました。

ところ

で、アウシュビツツ収容所といえば、ヨゼフ・メンゲレというナチス親衛隊将校でアウシュビツツの主任医官がユダヤ人をモルモットのように扱い、残虐でちやくちやな人体実験を繰り返したことでも知られています。絶滅収容所の親衛隊医官というの

は

病気を診るというよりも、到着したユダヤ人の中からガス室送りにする者たちの選抜、またそれらガス殺したユダヤ人の死体を焼く作業人員の選

択

は

ある

です。

「加害者」の日独両国民自身はそういう歴史認識は希薄になりますが、「被害者」の周辺諸国には今なお潜在的

に

いるようです。たとえば、ポーランドは独ソ両国の侵略・分割、カチンの森の虐殺やアウシュビツツなど多くの血なまぐさい歴史の舞台となり、大国の非情さ、酷薄さ、裏切りをいやとうほど味わってきました。

ところ

で、アウシュビツツ収容所といえば、ヨゼフ・メンゲレというナチス親衛隊将校でアウシュビツツの主任医官がユダヤ人をモルモットのように扱い、残虐でちやくちやな人体実験を繰り返すことでも知られています。絶滅収容所の親衛隊医官というの

は

病気を診るというよりも、到着したユダヤ人の中からガス室送りにする者たちの選抜、またそれらガス殺したユダヤ人の死体を焼く作業人員の選

択

は

ある

です。

「加害者」の日独両国民自身はそういう歴史認識は希薄になりますが、「被害者」の周辺諸国には今なお潜在的

に

いるようです。たとえば、ポーランドは独ソ両国の侵略・分割、カチンの森の虐殺やアウシュビツツなど多くの血なまぐさい歴史の舞台となり、大国の非情さ、酷薄さ、裏切りをいやとうほど味わってきました。

ところ

で、アウシュビツツ収容所といえば、ヨゼフ・メンゲレというナチス親衛隊将校でアウシュビツツの主任医官がユダヤ人をモルモットのように扱い、残虐でちやくちやな人体実験を繰り返すことでも知られています。絶滅収容所の親衛隊医官というの

は

病気を診るというよりも、到着したユダヤ人の中からガス室送りにする者たちの選抜、またそれらガス殺したユダヤ人の死体を焼く作業人員の選

択

は

ある

です。

「加害者」の日独両国民自身はそういう歴史認識は希薄になりますが、「被害者」の周辺諸国には今なお潜在的

に

いるようです。たとえば、ポーランドは独ソ両国の侵略・分割、カチンの森の虐殺やアウシュビツツなど多くの血なまぐさい歴史の舞台となり、大国の非情さ、酷薄さ、裏切りをいやとうほど味わってきました。

ところ

で、アウシュビツツ収容所といえば、ヨゼフ・メンゲレというナチス親衛隊将校でアウシュビツツの主任医官がユダヤ人をモルモットのように扱い、残虐でちやくちやな人体実験を繰り返すことでも知られています。絶滅収容所の親衛隊医官というの

は

病気を診るというよりも、到着したユダヤ人の中からガス室送りにする者たちの選抜、またそれらガス殺したユダヤ人の死体を焼く作業人員の選

択

は

ある

です。

「加害者」の日独両国民自身はそういう歴史認識は希薄になりますが、「被害者」の周辺諸国には今なお潜在的

に

いるようです。たとえば、ポーランドは独ソ両国の侵略・分割、カチンの森の虐殺やアウシュビツツなど多くの血なまぐさい歴史の舞台となり、大国の非情さ、酷薄さ、裏切りをいやとうほど味わってきました。

ところ

で、アウシュビツツ収容所といえば、ヨゼフ・メンゲレというナチス親衛隊将校でアウシュビツツの主任医官がユダヤ人をモルモットのように扱い、残虐でちやくちやな人体実験を繰り返すことでも知られています。絶滅収容所の親衛隊医官というの

は

病気を診るというよりも、到着したユダヤ人の中からガス室送りにする者たちの選抜、またそれらガス殺したユダヤ人の死体を焼く作業人員の選

択

は

ある

です。

「加害者」の日独両国民自身はそういう歴史認識は希薄になりますが、「被害者」の周辺諸国には今なお潜在的

に

いるようです。たとえば、ポーランドは独ソ両国の侵略・分割、カチンの森の虐殺やアウシュビツツなど多くの血なまぐさい歴史の舞台となり、大国の非情さ、酷薄さ、裏切りをいやとうほど味わってきました。

ところ

で、アウシュビツツ収容所といえば、ヨゼフ・メンゲレというナチス親衛隊将校でアウシュビツツの主任医官がユダヤ人をモルモットのように扱い、残虐でちやくちやな人体実験を繰り返すことでも知られています。絶滅収容所の親衛隊医官というの

は

病気を診るというよりも、到着したユダヤ人の中からガス室送りにする者たちの選抜、またそれらガス殺したユダヤ人の死体を焼く作業人員の選

択

は

ある

です。

「加害者」の日独両国民自身はそういう歴史認識は希薄になりますが、「被害者」の周辺諸国には今なお潜在的

に

いるようです。たとえば、ポーランドは独ソ両国の侵略・分割、カチンの森の虐殺やアウシュビツツなど多くの血なまぐさい歴史の舞台となり、大国の非情さ、酷薄さ、裏切りをいやとうほど味わってきました。

ところ

で、アウシュビツツ収容所といえば、ヨゼフ・メンゲレというナチス親衛隊将校でアウシュビツツの主任医官がユダヤ人をモルモットのように扱い、残虐でちやくちやな人体実験を繰り返すことでも知られています。絶滅収容所の親衛隊医官というの

は

病気を診るというよりも、到着したユダヤ人の中からガス室送りにする者たちの選抜、またそれらガス殺したユダヤ人の死体を焼く作業人員の選

択

は

ある

です。

「加害者」の日独両国民自身はそういう歴史認識は希薄になりますが、「被害者」の周辺諸国には今なお潜在的

に

いるようです。たとえば、ポーランドは独ソ両国の侵略・分割、カチンの森の虐殺やアウシュビツツなど多くの血なまぐさい歴史の舞台となり、大国の非情さ、酷薄さ、裏切りをいやとうほど味わってきました。

ところ

で、アウシュビツツ収容所といえば、ヨゼフ・メンゲレというナチス親衛隊将校でアウシュビツツの主任医官がユダヤ人をモルモットのように扱い、残虐でちやくちやな人体実験を繰り返すことでも知られています。絶滅収容所の親衛隊医官というの

は

病気を診るというよりも、到着したユダヤ人の中からガス室送りにする者たちの選抜、またそれらガス殺したユダヤ人の死体を焼く作業人員の選

択

は

ある

です。

「加害者」の日独両国民自身はそういう歴史認識は希薄になりますが、「被害者」の周辺諸国には今なお潜在的

に

いるようです。たとえば、ポーランドは独ソ両国の侵略・分割、カチンの森の虐殺やアウシュビツツなど多くの血なまぐさい歴史の舞台となり、大国の非情さ、酷薄さ、裏切りをいやとうほど味わってきました。

ところ

で、アウシュビツツ収容所といえば、ヨゼフ・メンゲレというナチス親衛隊将校でアウシュビツツの主任医官がユダヤ人をモルモットのように扱い、残虐でちやくちやな人体実験を繰り返すことでも知られています。絶滅収容所の親衛隊医官というの

は

病気を診るというよりも、到着したユダヤ人の中からガス室送りにする者たちの選抜、またそれらガス殺したユダヤ人の死体を焼く作業人員の選

択

は

ある

です。

「加害者」の日独両国民自身はそういう歴史認識は希薄になりますが、「被害者」の周辺諸国には今なお潜在的

に

いるようです。たとえば、ポーランドは独ソ両国の侵略・分割、カチンの森の虐殺やアウシュビツツなど多くの血なまぐさい歴史の舞台となり、大国の非情さ、酷薄さ、裏切りをいやとうほど味わってきました。

ところ

で、アウシュビツツ収容所といえば、ヨゼフ・メンゲレというナチス親衛隊将校でアウシュビツツの主任医官がユダヤ人をモルモットのように扱い、残虐でちやくちやな人体実験を繰り返すことでも知られています。絶滅収容所の親衛隊医官というの

は

病気を診るというよりも、到着したユダヤ人の中からガス室送りにする者たちの選抜、またそれらガス殺したユダヤ人の死体を焼く作業人員の選

択

は

ある

です。

「加害者」の日独両国民自身はそういう歴史認識は希薄になりますが、「被害者」の周辺諸国には今なお潜在的

に

いるようです。たとえば、ポーランドは独ソ両国の侵略・分割、カチンの森の虐殺やアウシュビツツなど多くの血なまぐさい歴史の舞台となり、大国の非情さ、酷薄さ、裏切りをいやとうほど味わってきました。

ところ

で、アウシュビツツ収容所といえば、ヨゼフ・メンゲレというナチス親衛隊将校でアウシュビツツの主任医官がユダヤ人をモルモットのように扱い、残虐でちやくちやな人体実験を繰り返すことでも知られています。絶滅収容所の親衛隊医官というの

は

病気を診るというよりも、到着したユダヤ人の中からガス室送りにする者たちの選抜、またそれらガス殺したユダヤ人の死体を焼く作業人員の選

択

は

ある

です。

「加害者」の日独両国民自身はそういう歴史認識は希薄になりますが、「被害者」の周辺諸国には今なお潜在的

に

いるようです。たとえば、ポーランドは独ソ両国の侵略・分割、カチンの森の虐殺やアウシュビツツなど多くの血なまぐさい歴史の舞台となり、大国の非情さ、酷薄さ、裏切りをいやとうほど味わってきました。

ところ

で、アウシュビツツ収容所といえば、ヨゼフ・メンゲレというナチス親衛隊将校でアウシュビツツの主任医官がユダヤ人をモルモットのように扱い、残虐でちやくちやな人体実験を繰り返すことでも知られています。絶滅収容所の親衛隊医官というの

は

病気を診るというよりも、到着したユダヤ人の中からガス室送りにする者たちの選抜、またそれらガス殺したユダヤ人の死体を焼く作業人員の選

択

は

ある

です。

「加害者」の日独両国民自身はそういう歴史認識は希薄になりますが、「被害者」の周辺諸国には今なお潜在的

に

いるようです。たとえば、ポーランドは独ソ両国の侵略・分割、カチンの森

抜もやつていました。医師というより組織的な大量殺人（ジエノサイド）の執行者といえます。ナチスの蛮行はアウェシユビツツのほかにもさまざまな形態を伴い、無数の事例があります。たとえば、独ソ戦初期で一度に何十万というソ連軍兵士が捕虜となり、ナチスは独特の人種観からソ連兵には捕虜待遇を規定した国際協定を適用しませんでした。非情な虐待行為が日常的、継続的且つ大規模に行われ、多数のソ連兵捕虜は寒さ、飢餓、疫病、強制労働、見せしめ処刑などで虫けらのようになされ、バタバタ斃れてゆきました。最終的に生き残った者は一〇分の一にも満たなかつたでしょう。ですから、ナチスの蛮行は決して、ユダヤ人の強制収容所だけではなかつたのです。

ナチスの狂気の人種観によると、ユダヤ人が最底辺でその上に黒人、スラブ系、ラテン系、北欧系と、「人種の優劣」がピラミッド状に規定されており、「最優秀のアーリア人」つまりドイツ民族が唯一の支配民族とされていました。それゆえに、上記のそれぞれの範疇の人々の取り扱いは「人種の優劣」度に応じて、それなりの差がありました。

(次号に続く)

抜もやつしていました。医師というより組織的な大量殺人（ジエノサイド）の執行者といえます。ナチスの蛮行はアウェシユビツツのほかにもさまざまな形態を伴い、無数の事例があります。

## 被災者五〇万人

### 救援募金にご協力を！

### 福島原子力発電所 事故対応について申し入れ

日本共産党 志位和夫委員長

三月一日午後二時四六分、東日本でM九を超える地震が発生。一〇mを超える大津波が襲いました。加えて、福島第一原子力発電所の爆発事故の事態も深刻になっています。

死者・行方不明は二万五千人を超え、避難所には四〇万人の人々がかけこみ、厳寒の中で救援を待っています。食料や水、燃料や衣料品、医薬品など、何もかも足りません。

高齢者、幼児、病人も疲れきっています。でも、被災者の多くは苦しみに耐えながら明日への希望を失わず、救援を待っています。

東日本大震災救援募金に皆さんのご協力ををお願いします。

### ☆ 募金の呼びかけ

金沢市京町二八一八  
石川民医連労働組合気付

### 「非核の政府を求める石川の会」

☎ ○七六一五一一〇〇一四

郵便振替 ○○七六〇一〇一五六八九

今回の福島第一原発の事故はかつて経験したことのない深刻な事故であり、国民の中に強い不安が広がっている。原子力安全委員会の役割をフルに活用發揮させるべく以下、政府に申し入れる。

① 福島原子力発電所の事故への対応について、原子力安全委員会（＊）に第三者機関としての責務を果たさせるべきである。

そのためすべての情報を原子力安全委員会に集中するとともに、必要な権限を

与えるべきである。

② 原子力安全委員会とそのもとにある専門部会や事務局体制をフル稼働させるとともに、あらゆる専門家、専門家集団の英知を結集して、事態の掌握と、危険の除去、安全対策をはかるべきである。（次頁）

☆ 救援対策本部へ納入  
納入された募金は「非核の政府を求める会（全国の会）」に全額納入。指定された被災地対策本部に送金します。

## \* 【原子力安全委員会】

一九七八年設置。首相が任命した五人の委員のもと、原子炉安全専門審査会（六〇人）、緊急対策調査委員（四〇人）と一四の専門部会（約二五〇人）、事務局（約一〇〇人）が置かれています。関係行政機関への勧告権を持つなど、通常の審議会にはない強い権限を持っています。

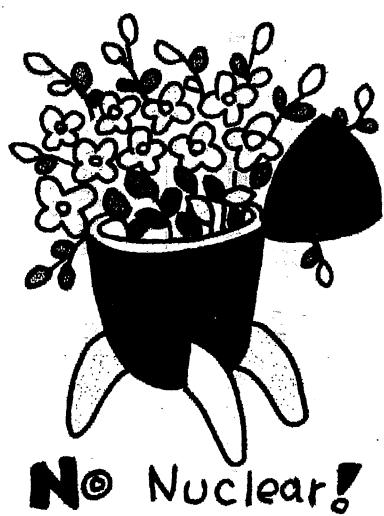


## 《今後の予定》

- ・八月七日(日)一三時半六時 横井久美子コンサート(芸術村ミュージック工房)
- ・五月三日(火)一三時半教育実践学習会(富樫プラザ)
- ・四月二〇日(日)一〇時半県議会議員選挙投票
- ・四月一七日(日)市議会議員選挙告示
- ・四月一九日(火)町議会議員選挙告示
- ・四月二四日(日)市議会・町議会議員選挙投票
- ・五月三日(火)一三時半
- 五・三憲法施行記念県民集会
- 「小森陽一東大教授講演九条の会事務局長  
(文教会館)
- ・六月五日(日)一三時 「はだしのゲン」上映会・岩佐幹三氏被爆証言を聴く会(教育会館)
- ・六月一一日(土)一〇時半 非核の政府を求める会の第二六回全国総会(東京・主婦会館プラザエフ)
- ・六月一二日(日)一〇時 石川県母親大会(女性センター)
- ・六月一二日(日)一七日(金) 平和行進能登路
- ・一八日(土)二四日(金) 平和行進富山(広島コース県内加賀路)
- ・七月二三日(土)一〇時 反核平和おりづる市民のつどい(卯辰山・平和の子ら像前広場)
- ・八月四日(水)一七日(木) 原爆と人間展(県庁一九階展望ロビー)

## 《編集後記》

「安全神話」崩壊。東日本大震災の前になす術もなく制御不能になり、放射能の危険を全世界に示した原子力発電所。人類は改めて、核の危うさを実感したといえよう。石川県では、事故続きの志賀原発は現在休止中。廃炉を求め、自然エネルギーの研究と検討を……。



横井久美子コンサート(芸術村ミュージック